

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900012		
法人名	株式会社ウイズグループ		
事業所名	グループホームウイズライフ奈良屋		
所在地	福岡市博多区奈良屋町8-19		
自己評価作成日	R3年11月30日	評価結果確定日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	R3年12月23日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>ウイズグループの看護師と医療連携体制をとっている。 博多ならではの近隣行事(どんたく、灯明ウォッチング、放生会、山笠など)の見物。(コロナで行けてないが・・・) ウイズグループ間の協力体制がある。 ボランティアや実習生を多く受け入れている。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム ウイズライフ奈良屋」は、デイサービスと複合型の2ユニット事業所である。福岡市内で介護事業を展開している法人(ウイズグループ)を母体とする。都市高速の入口にも、博多天神の市街地にも近い、非常にアクセスが良い地域であると同時に、昔の商業地の面影を残す街並みは非常に穏やかで、近くには櫛田神社など伝統文化や博多商人の息吹を感じさせる環境にある。地域との関りや交流も深く、地域の公民館の「はつらつサロン」などへの参加、保育園などの訪問もある。職員は管理者を中心として、地域性を活かしながら、この事業所ならではのサービス提供、ケアの充実と心を砕く。コロナ感染拡大の懸念から、外出や家族の面会などを自粛せざるを得なくなり、日常的にもさまざまな場面で制約が生じている。その中で、可能な限りこれまでの日常生活が続けられるよう、職員も支援を続けており、元通りの生活が戻る日には、改めて活躍が期待できる事業所である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階事務所と相談室に掲示してある。それに基づき自己目標管理シートを作成し、評価している。	事業所の理念を週に1回の申し送りの際に唱和している。各ユニットの事務所、相談室に掲示もなされている。月に3回見直しを行う「自己目標管理シート」にも通じている。職員は理念を咀嚼のうえ理解していて、それに沿ったケアを目指す意識を共有している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のコーラス隊の演奏ボランティアで地域の方がこられる。地区の祭り、サロンにも参加。近々はコロナで行けてない。	訪問調査を行ったのはコロナ禍が幾分落ち着いた頃であり、公民館での「はつらつサロン」での健康体操への参加、事業所として折り紙教室のボランティアや実習生の受入、保育園や特別支援学校との交流などを前向きに再開していた。もともと当事業所は、昔ながらの人付き合いの風習が十分残っている地域にて、4校区とのかかわりがあり、自治会にも加入、地域との結び付きが非常に深く、親睦は図れている。	少し落ち着いた時期とはいえ、コロナ禍は長引いており、地区の祭りなどこれまで馴染んできたイベントも、中止になったり縮小して内輪だけでの開催となったり、ということを繰り返してきている。コロナは訪問調査後、再拡大の様相を呈しており、懸念が払拭されるまでにはまだ時間を要すると思われるが、収束後に向けて様々な構想を練り準備していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	奈良屋校区の事業所ネットワーク「おいさ博多」に参加し、公民館での健康体操等地域に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や民生委員、福祉関係の方からのご指摘等はミーティングで話し合い、月に一度生活状況レポートでご家族へ発信している。	偶数月(2ヶ月に1回)での定期開催を行ってきたが、訪問調査を行った際には、コロナ禍のため12月までは書面での開催を続け、次の2月からは事業所での再開ができそうと、その準備を進めている、と聞く。利用者及び利用者家族(3家族にて固定)、行政、包括、地域住民代表者(民生委員、校区関係者、社協など)らの出席を予定する。書面開催中であっても、建設的な意見は上がっており、また議事録の関係者への送付や事業所内への掲示は行っている。	コロナは訪問調査後、再拡大の様相を呈しており、懸念が払拭されるまでにはまだ時間を要すると思われるが、やがて事業所での開催が再開した折には、これまで以上に充実した会議になるよう、構想を練って実現していただきたい。出席者の検討、テーマの選別、必要に応じて行事とのタイアップ、曜日や時間を流動的に変えてみる、などの工夫を図って取り組んでいただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でも必ず市の介護保険事業所指導課のほうへ参加の有無を聞いている。	介護認定申請も郵送になり、運勢推進会議も書面開催になるなど、なかなか出向く事は少なくなったが、行政や地域包括支援センターに対して、定例の報告を行ったり、また運営上で困っている事や疑問点などがあつた時には相談を行ったり、アドバイスを受けたりすることがある。事業所のサービスの質の向上のための協力関係が築かれている。	

R3.12自己・外部評価表(ウズライフ奈良屋)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束についてはミーティングで話をしていく。フィジカル、スピーチ、ドラッグロックについても意見を聞いている。	各階の出入りは自由で、1回に併設されるデイサービスのレクリエーションに参加する利用者もいるが、離設傾向のある利用者もあり、日中玄関はオートロックになっている。拘束のないケアの実践を継続すべく、3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催、毎月のミーティングおよび年2回の研修会にて、身体拘束だけでなく、虐待やスピーチロックまで含めたところで理解や認識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も実施し、ミーティングにて必ず確認している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人利用は一名いる。管理者が年に一度権利擁護の研修を職員に実施している。	現在、成年後見制度の利用者が1名おり、職員は日常の取扱を通して、また併せて内部での研修(権利擁護とプライバシーとをセットで年1回)を行うことで、理解を深めている。利用者側から求めがあった場合に備えて事業所内にパンフレット等は常備しており、必要時には管理者が説明や手続を行う体制が整っている。グループ内にサポートサービスのシステムがあり、制度利用に向けた支援体制を作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明者は管理者に限定し、十分な説明を行い理解していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望は毎日の申し送りやカンファレンスで早期に解決できるように取り組んでいる。毎年ご家族アンケートを送付して、集計し、改善報告をご家族に行っている。	意見箱の設置はなく(5~6年絵に撤去)、年1回行ってきていた家族との懇親会もコロナ禍で見合わせている。家族とは事情が許す限りは、面会時などに口頭にて意見を聞く。本部から家族に対して年1回、職員や事業所運営についてのアンケートを行っており、内容については家族に経過報告を行うと同時に職員も共有する。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも事務所で意見交換できる体制をとっている。毎年自己評価シートを作成し、目標設定を管理者と一緒に考え実施している。	職員は、ミーティングの場だけでなく、随時意見提案をすることができている。日常的に管理者に相談しやすい雰囲気があり、意見も言いやすく、改善できる点は速やかに取り組まれている。自己評価シートにより一年に3回目標を立てなおし、個人面談を通して管理者がチェックする。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年1回人事考課があり、職員の個々の能力や頑張りに応じ、給与水準が上がり、向上心につながっている。		

R3.12自己・外部評価表(ウズライフ奈良屋)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集に関しては性別、年齢は特に問うてはいない。能力、性格に応じて役割を担ってもらい生き生きと勤務できるようにしている。	年齢層は20～60代(2名)で幅広く、個々の能力や特技を勤務に活かして、生き生きと仕事をしている。事業所として、休憩時間の確保、希望の休みやシフトの考慮もなされており、また上級資格の取得、外部研修への参加にも前向きで、スキルアップに努めている。職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由として採用対象から排除はしない。各階に休憩場所があり時間も十分確保できている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に一回倫理および法令順守・プライバシー保護について研修し、理解を深め、月に一度のミーティングでお互いに意見交換している。	人権や高齢者虐待防止に加えて、倫理・法例遵守・プライバシーの保護などの研修を通して理解を深め、啓発に努めている。利用者一人一人がその残存能力を最大限に活かす事ができるよう、その人らしさを大切に受け止める支援の実践に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成に関する確認票を用いて育成担当職員と管理者で協力し育成していく環境がある。会社内の研修もあり、職員のやる気、資質に応じた外部研修にも参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	博多区事業所ネットワークに参加している。奈良屋校区でネットワークを活かして、公民館での健康体操などを、協力して行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し、安心して過ごしていただけるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりと説明し、入居後にお困りごとがないように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、カンファレンスをしっかり行いその人らしいケアプランになるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊重し、できること、できないことをしっかり理解したうえで、介護するように努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者会議や面会時に情報交換しながら、ともに考え、良いケアにつながるようにしている。		

R3.12自己・外部評価表(ウズライフ奈良屋)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会、外出はめっきりと減ってしまった。ご家族の面会は事前予約で感染対策のうえ実施できた。	食堂を経営していた利用者に、当手を思い出しながら、食事を盛り付けたり、一品作ったりしてもらっている。基本的には訪問理美容を行うが、息子が理髪店を経営している利用者は、息子の店にお連れする事がある。亡くなった利用者の遺族が毎年カレンダーを持って来る。知人が手作りの雑巾を届けに来る。コロナ禍にて難しい事もあるが、以上のような事を通して、日常懐かしい関係が途切れないように、職員側から努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の橋渡しができるように日々の生活を観察し、スムーズに会話できるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了してからの相談基本的にはない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはケアマネ、担当職員が基本情報を聞き取りし、入居前の生活を把握するようにしている。定期的に、介護記録や本人、家族との会話をもとにカンファレンスを実施している。	利用者からは、かしこまったりすることなく、自然なスタイルで自由に意見や思いを述べてもらうが、意思疎通が難しい方からは、本人の様子から察知したり、家族からの要望を聞き取ったりしながら、思いや意向の把握に努めている。日々の記録を通して感じられた変化や、気になった点などを担当職員がケアチェックに追記、ケアマネジャーに報告する。3ヶ月ごとに見直しカンファレンスを実施し、6ヶ月毎にケアマネジャーがアセスメントを行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような生活を送り、人生を送ってきたかは家族や周りの人、本人から聞き取りし、把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活やリハビリの記録を残すことで、状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が評価し、ミーティングや申し送りで報告、カンファレンスをおこなっている。家族との会話、主治医照会などをもとにその人らしいケアプランを作成している。	担当職員が評価を行い申し送り報告、家族や医師、関わる人々から意見を取り込み、担当者会議を行う。目標に対してより良い理解を得て、現状に反映した介護計画を考え、ケアマネジャーが作成している。	

R3.12自己・外部評価表(ウィズライフ奈良屋)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にサービス実施状況を記載し、職員間で共有し、都度変更があればサービス内容を追記している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスにとらわれずに柔軟にその人らしいサービスをミーティング、申し送り等活用している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との接触を制限していた。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在受診者は2名いる。コロナ禍の影響で基本的には往診医を紹介している。	希望があればもとのかかりつけ医を継続する(家族が通院を支援)のは自由で、続けられてきた方もいたが、コロナ禍となったからの変更も見られ、現在では利用者全員が協力医による訪問診療を受けている。看護師による日々の健康管理に加え、緊急時の対応も迅速にできるうえ、家族に対して密に報告をしていることで、家族の安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じグループの医療連携室が定期的に健康観察・リハビリの指導に来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時のマニュアルがあり、それをもとに病院関係者と連携し早期退院に向けて取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明に関する同意をいただき、24時間対応の往診医と連携している。ターミナルケアの勉強会も実施。担当者会議でも再度救急搬送先の確認や看取りについての説明も行っている。	基本的に看取りを行うという指針があり、ここ1年間でも2名の利用者を看取っている。利用時に指針を説明し書面にて同意を得る。その後も状況の変化に伴い話し合いを重ね、関係者間の方針共有に努めている。年に1回ターミナルケアについての研修も実施されている。	

R3.12自己・外部評価表(ウズライフ奈良屋)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故等が発生した場合の勉強会は定期的に行い自己研鑽に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中、夜間を想定して実施している。今年はコロナ禍もあり、消防立ち合いの訓練は実施できていないので、コロナも落ち着いてきているので実施していく。	グループホーム(2ユニット)および1階に併設のデイサービスも合同で年2回、夜間想定も含めて実施している。避難誘導や消火器の使用方法を理解して実践したり、避難経路や場所を確認したりする他、日常的にマニュアルや防災マップの整備、備蓄物の確保を行う。ハザードマップ上も水害の心配はない地域と聞く。地域の防災会議(月1回)や小学校での訓練(年1回)に、それぞれ職員が参加している。	事業所側は、訓練に消防署の立ち合いを希望しており、実現を期待する。また今後事業所の防災訓練に地域住民の参加の呼びかけてみたらどうだろうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報利用の同意はとっている。肖像権の利用についても今年から同意をとる様にしている。	声掛けや言葉かけなども含めたコミュニケーション、プライバシーの確保、接遇のマナー、排泄時など羞恥心を考慮したケアなどに関して研修を行い、また日常的に管理者やリーダーから、または職員相互にて、注意喚起を行っている。個人情報の使用に関しては写真利用も含めた同意を書面で得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でご利用者に決定権を持たせるようにお声掛けし、記録に残しながらケアプランに反映させていく。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が送れるように、個々にあったレクリエーションや日常の会話等の工夫をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、行事の時のお化粧などは必ず実施する。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は主食のみ用意し、副食は配達してもらっている。月に2度の食レクでご利用者の好きなものを注文したり、一緒に作ったりしている。	ごはんは毎食事業所にて炊き、おかずはできあがった物を加熱もしくは保温して提供する。食事形態(ミキサー、刻み、トロミ付など)や療養食(減塩等)への対応もできる。盛り付け、片付け、一部調理などを手伝う利用者もいる。月2回程度食レクを行い、外食のデリバリーやインスタントラーメン、寿司などの時もある。職員も一緒にテーブルを囲み、会話をしながら楽しいひとときを過ごす。	

R3.12自己・外部評価表(ウズライフ奈良屋)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック、水分チェックはこまめに行い、無理強いではなく、		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。毎週歯科往診に来てもらっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員分の排せつチェック表がある。ここにあったトイレ誘導やパット交換を行い、評価によってはオムツ外しや布パンツに変更になった例もある。	職員は排泄チェック表を通して各利用者のパターンを把握してトイレへ誘導する。また排泄時間の間隔、おむつ等の変更などを適宜話し合って改善につなげている。排泄は夜間もポータブルトイレなどを利用するなどして座位での排泄を心がけている。できる限り自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやオリゴ糖を活用している。体操時に蠕動運動を実施。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	座りっぱなしにならないように除圧やお部屋での休息をとっている。週3回入浴実施している。足浴が必要な方には足浴実施している	基本は週3回程度で振り分けているが、希望があれば時間や曜日、回数は柔軟に対応できる。個浴で、浴槽の湯は毎回入れ替えている。入浴剤の使用や職員との会話などにより、入浴が楽しくなるように配慮している。脱衣室に暖房を設置している。拒否のある方には時間帯や担当を替えて、無理強いせずに働きかける。皮膚観察や体調の把握の場としても役立っている。なお随時足浴も行っており、また浴槽は三方から介助が可能な造りになっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	座りっぱなしにならないように除圧やお部屋での休息をとっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情やお薬手帳を確認して、情報共有に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で実施できていない。折り紙ボランティアは実施している。		



R3.12自己・外部評価表(ウズライフ奈良屋)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍で外出制限があるが、近隣散歩はしていただいている。	場所柄、博多祇園山笠やどんたくなどの行事の見学には好都合の立地であり、花見や外食を含めて、外出支援に積極的に取り組んでいたが、コロナウィルス感染対策として控えている。それでも状況が落ち着いた頃に限り、みかん狩りや「はつらつサロン」の健康体操、散歩などには少しずつだが出掛けている。	コロナ収束の折には、元通りの外出支援を、できれば家族や地域の支援を仰ぎながら、前向きに行っていただくことを望む。なお、近隣にスーパー(マックスバリュ)が建設中であり、オープンする頃には買物にも行けるようになることも期待する。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本所持してもらっていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一緒に寄り添い、やり取りできるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから居室を一望でき見守りしやすい環境になっている。お部屋の表札を手作りで作成し、季節に合わせた飾りつけを行っている。	建物の2・3階がそれぞれのユニットとなっている。造りはほぼ共通で、リビングから各居室ドアが概ね一望できるように居室が配置されており、職員の見守りも容易。リビングには家族からの希望でレクレーション外出時の楽しい写真が飾られているが、スライドショーの利用もある。行事に合わせた飾りつけ(訪問時はクリスマス・ハロウィン)がなされ、利用者は季節感を味わう事ができる。各居室の入口には、職員による手作りの表札が飾られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでみんなと過ごされたり、居室で過ごされたりと各々のペースで過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はベッド、カーテン、エアコンが設置されていて、あとはご本人の持ち込みは火を扱うもの以外は基本的に自由に準備してもらっている。	各居室は間取り、レイアウトが少しずつ違っており、それぞれに趣を見せる。利用者は筆筒・いす・テレビなどの使い慣れた家具や、家族の写真や位牌など大事にしている愛着のある物を思い思いに持ち込んだりして、居心地の良い部屋にしている。介護ベッド・エアコン・カーテンは事業所側で用意されている。職員は、日頃の掃除に加え、安全に移動できるように気を配っており、落ち着いて過ごせるような配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々のできること、料理の盛り付けや手すり、テーブル拭き、洗濯たみなど意欲的にできる雰囲気を作っている。		